目　　次

序　説……1

第1章　民事法制・刑事法制の近代化への萌芽

Ⅰ　民事法制……2
　1　民事の法規範……2
　2　民事裁判手続……2
　　(1)　糾問的な手続……2
　　(2)　民事裁判手続の近代化……3
　　(3)　法典なき時代……3
Ⅱ　刑事法制……4
　1　刑事の法規範……4
　〈コラム〉筋違の敵討……5
　2　刑事裁判手続……5
　〈コラム〉岩倉具視襲撃事件……5
　3　まとめ……6

第2章　西洋法の導入と裁判所の設置

Ⅰ　西洋法の導入……7
　1　フランス法典の翻訳……7

(1)　箕作麟祥の訳業……7
(2)　フランスの法典……8
(3)　フランス民法を日本民法へ……9
2　法律家の招聘……10
(1)　ブスケ……10
(2)　ボアソナード……10
3　法典の編纂……11
(1)　刑　法……11
(2)　治罪法……14
(3)　ドイツ法の影響……15
(4)　現代の法律との関係……15
4　法学教育のための学校開設……17
(1)　明法寮の開設……17
(2)　フランス法に基づく法学教育……17
Ⅱ　裁判所の設置……18
1　司法省による裁判権の統一……18
(1)　聴訟断獄事務を扱う……18
(2)　全国法憲を司り各裁判所を統括……19
2　司法職務定制による裁判所……20
3　大審院諸裁判所職制章程による裁判所……20
(1)　全国法権の統一を主持……20
(2)　地方官による裁判の廃止……21
〈コラム〉火災になった裁判所……21
4　治罪法による裁判所……22
5　裁判所官制による裁判所……22
6　裁判所構成法による裁判所……23
7　裁判官の身分保障……23
8　現代の裁判所……24

第3章　代言人の登場

Ⅰ　代言人法制……26
1　公事師と代言人との関係……26
2　証書人代書人代言人職制……27
(1)　証書人・代書人・代言人……27
(2)　フランスにおける証書人・代書人・代言人……28
(3)　代言人登場の意義……29
〈コラム〉司法職務定制――維新の劈頭を飾る宝典……29
3　代人規則による代人……30
4　訴答文例並附録による代書人・代言人……31
(1)　訴答文例並附録……31
(2)　代書人……31
(3)　代言人……32
5　裁判官・検察官の任用……35
(1)　自由任用制……35
(2)　裁判所取締規則……36
6　代言人の民事代理……38
(1)　前島豊太郎……39
(2)　児玉淳一郎・中定勝……39
〈コラム〉フルベッキが見た維新当時の日本……41
Ⅱ　法律研究所と法律学研究……42
1　島本仲道の法律研究所……42
2　元田直の法律研究所……44

第４章　免許代言人・代言人組合

Ⅰ　明治９年代言人規則……45
1　代言人規則……45
(1)　免許状の交付……45
(2)　代言人試験……47
2　免許代言人――弁護士の誕生……49
3　免許代言人の統制……51
(1)　免許と統制……51
(2)　懲戒規定……51
4　免許代言人のプライド……52
(1)　星亨……52
(2)　砂川雄峻……53
Ⅱ　明治13年改正代言人規則……54
1　改正代言人規則……54
2　代言人組合の設立……55
3　試験者の変更……57
(1)　試験科目……58
(2)　試験問題――何々の訴状は何色の罫紙に記載すべきや……58
(3)　５科目の試験問題……59
4　１通の免許状……61
5　免許代言人の職務……62
6　懲戒規定……62
(1)　免許代言人の懲戒……62
(2)　懲戒事件……63
Ⅲ　免許代言人の法律学研究と法律学校の設立……63
1　免許代言人の法律学研究……63

(1)　大井憲太郎……64
(2)　渋川忠二郎……66
(3)　高橋一勝……67
(4)　増島六一郎……67
2　法律学校の設立……68
(1)　フランス法系の法律学校……68
(2)　イギリス法系の法律学校……69
3　法律学校による貢献……69
(1)　現在の弁護士・弁護士会との関係……70
(2)　法律学校と大学・法科大学院……71

第５章　弁護士・弁護士会

Ⅰ　議会における免許代言人議員の活躍……72
1　明治23年弁護士法案……72
2　明治25年弁護士法案……74
3　衆議院の審議……74
4　両院協議会……80
5　免許代言人議員の審議参加……80
Ⅱ　明治26年弁護士法……80
1　弁護士――新しい職名……80
(1)　弁護士名簿に登録……80
(2)　弁護士試験……81
(3)　統一試験……82
2　弁護士の職務……83
(1)　訴訟行為……83
(2)　弁護士の職務に対する認識……84

3　弁護士会……85
(1)　弁護士会の設立……85
(2)　弁護士会の役員……85
(3)　弁護士会の監督……85
(4)　弁護士会長懲戒事件……86
(5)　弁護士会の議する事項……87
4　弁護士の懲戒……88
(1)　法廷における弁護士……88
(2)　今村力三郎弁護士懲戒事件……89
(3)　昭和８年の弁護士法の懲戒……90
(4)　現行弁護士法の懲戒……91

第６章　免許代言人と言論弾圧との闘い

Ⅰ　言論統制法……92
1　維新政府から薩長藩閥政府へ……92
2　集会結社言論の弾圧……93
〈コラム〉反骨の新聞人……93
3　民権家講談師の出現……95
〈コラム〉自由人になりたい……95
Ⅱ　免許代言人の政談演説……96
1　立憲主義国家をめざして……96
2　縣河の弁をもって滔々と説く……96

第７章　自由民権運動と免許代言人

Ⅰ　自由民権思想……98
1　啓蒙思想家の活躍……98
2　啓蒙著作の影響……99
Ⅱ　自由民権運動……100
1　自由民権運動の勃興……100
2　各地の政治結社……101
(1)　愛国社の結成……102
(2)　国会開設を求める建白（立志社建白）……102
(3)　国会期成同盟……103
(4)　北海道開拓使官有物払下げ中止……103
(5)　私擬憲法……103
(6)　明治14年の政変と国会開設時期の表明……104
3　政党の結成……104
(1)　自由党……104
(2)　立憲改進党……105
Ⅲ　自由民権運動をリードした免許代言人……106
1　愛媛の免許代言人……106
(1)　藤野政高――自由党・弁護士法案審議で活躍……106
〈コラム〉星議長の議事進行を注意した藤野政高……107
(2)　高須峯造――立憲改進党・海運会社事件……107
(3)　玉井正興――自由党・天下の公人……109
(4)　井上要――立憲改進党・芦屋川水利権訴訟……109
2　静岡の免許代言人……112
(1)　角田真平――立憲改進党・不応為罪事件……112
(2)　前島豊太郎――自由党・讒謗律違反事件……114

〈コラム〉演説会……121

第 8 章　自由民権裁判と免許代言人

Ⅰ　集会条例違反事件……122
1　興風会演説会葬事件――警察への抗議行動……122
(1)　興風会の結成……122
(2)　政談学術演説会の開催……123
(3)　演説会葬の挙行……124
(4)　鉱山の山師を訪問……125
(5)　興風会メンバーの逮捕と公判……126
(6)　西条治安裁判所の判決……129
2　裁判所の異なる判断……131
(1)　裁判所の表示……131
(2)　松山始審裁判所の判決……133
(3)　現代の集会の自由……134
Ⅱ　不敬事件……134
1　高知の不敬事件……134
(1)　森田馬太郎事件……135
(2)　坂崎斌事件……135
2　新潟の推古天皇不敬事件……136
(1)　被疑者 3 人の逮捕……136
(2)　新潟軽罪裁判所の公判……137
(3)　検察官の論告求刑……141
(4)　弁護人の弁論……142
(5)　新潟軽罪裁判所の判決……144
(6)　大審院の公判……145

(7)　免許代言人の気魄……146
(8)　大審院の判決……147
(9)　不敬罪の廃止……148

第 9 章　自由民権運動の弾圧事件
――高等法院で弁護した免許代言人

Ⅰ　福島事件……150
1　事件の概要……150
(1)　土木県令三島通庸の着任……150
(2)　三島の三方道路計画……151
(3)　福島県会の陣容……151
(4)　道路開鑿工事と住民の反発……152
(5)　免許代言人の訴訟鑑定……152
(6)　若松治安裁判所へ勧解の申立て……152
(7)　弾正ヶ原事件……154
(8)　会津帝政党……155
(9)　無名館急襲事件……155
(10)　免許代言人らの逮捕……156
(11)　拷問の禁止と実際……157
2　高等法院の裁判……158
(1)　高等法院の開設……158
(2)　高等法院の裁判官・検察官・弁護人……159
(3)　高等法院の裁判……159
〈コラム〉欧米の法律書で研究した免許代言人……162
(4)　判　決……164
3　判決の問題点――政府の圧力に対する高等法院の妥協と

抵抗……167
(1)　県令からの圧力……167
(2)　裁判所の立場……167
4　宮城控訴裁判所への提訴……168
(1)　訴訟の提起……168
(2)　藤沢幾之輔免許代言人……170
5　第３の訴訟を起こす方法はないか……171
6　その後の経過……172
7　世間は福島事件をどうみたか……174
〈コラム〉明治16（1883）年の新聞記事……175
Ⅱ　高田事件……175
1　事件の概要……176
(1)　北陸自由党懇親会……176
(2)　赤井の天誅党趣意書……177
2　高等法院の裁判……177
(1)　検察官の主張……177
(2)　武藤直中免許代言人……178
(3)　武藤直中の弁論……178
3　赤井の脱獄……179
4　官憲の策略……180
5　現代の裁判官倫理・検察官倫理……182
(1)　裁判官倫理……182
(2)　検察官倫理……183

第10章　自由民権運動の激化事件――重罪裁判所で弁護した免許代言人

Ⅰ　国事犯でも通常裁判所で裁判せよ……185
Ⅱ　加波山事件……186
1　事件の概要……186
(1)　土木県令三島通庸栃木に着任……186
(2)　加波山事件の発生……187
2　逮捕地の裁判所で裁判せよ……190
3　重罪裁判事件……191
(1)　管轄違いについての大審院の判断……191
(2)　東京重罪裁判所……192
(3)　甲府重罪裁判所……194
〈コラム〉演説会と料理屋……194
(4)　栃木重罪裁判所……195
〈コラム〉県庁堀……197
(5)　千葉重罪裁判所……198
4　政治犯を強盗故殺犯として処断……200
(1)　被告人の親族が弁護人を訪問……201
(2)　厳罰処分は国事犯の発生を防止できたか……201
(3)　相次ぐ激化事件……202
Ⅲ　秩父事件……203
1　事件の概要……203
2　免許代言人による無償弁護……205
(1)　守屋此助……206
(2)　大岡育造……206
(3)　高梨哲四郎……208

(4)　小川三千三……209
(5)　斎藤孝治……209
(6)　山中道正……210
(7)　弁護活動と新聞報道……210
3　浦和重罪裁判所……210
4　大審院に上告……211
Ⅳ　静岡事件……211
1　岳南自由党・遠陽自由党……211
2　箱根離宮落成式襲撃の謀議……212
3　東京重罪裁判所……213
〈コラム〉親子２代の弁護士……215

第11章　免許代言人・弁護士の刑事裁判
――法廷で闘う免許代言人・弁護士

Ⅰ　星亨・大井憲太郎の刑事裁判……217
1　星亨免許代言人……218
(1)　政治の限界を超え余計な御世話である――官吏侮辱事件……218
(2)　ボアソナード条約改正反対意見等の秘密出版――出版条例違反事件……229
2　大井憲太郎免許代言人……230
(1)　朝鮮政府の事大党を倒し独立党を支援すべし――大阪事件……230
(2)　大阪重罪裁判所……234
(3)　公判の開始……235
(4)　公判廷の模様……243
(5)　刑罰の種類……244
(6)　判決の言渡し……244

(7)　司法権独立の動き……249
Ⅱ　弁護士と官憲との衝突……250
1　戸部富蔵弁護士……250
(1)　実に野蛮の法廷なり――官吏侮辱事件……250
(2)　有罪判決……251
2　小島憲民弁護士……251
(1)　吹けば飛ぶがごとき小役人――官吏侮辱事件……251
(2)　無罪判決……252
(3)　官吏侮辱罪の廃止……252
(4)　言論統制法の改廃……253

第12章　法典論争と免許代言人

Ⅰ　民法典・商法典の編纂……254
1　民法典の編纂……254
2　商法典の編纂……256
Ⅱ　法典論争――延期派と断行派の攻防……258
1　社会的背景……258
2　法典論争の発端――法学士会の意見……259
3　法学派の争い……259
4　両派の具体的論争――免許代言人の活躍……260
(1)　イギリス法学派の施行延期論……260
(2)　フランス法学派の施行断行論……264
5　議会における論戦……268
(1)　商法の延期戦……269
(2)　民法の延期戦……272
(3)　法典論争の性質……275

(4)　法学派の興亡 ……276
6　ボアソナードの帰国 ……276
Ⅲ　新法典の編纂と現代の民法商法改正 ……278
1　新民法典 ……278
2　新商法典 ……279
3　不平等条約の改正 ……279
4　法典調査会等における弁護士の活躍 ……279
5　現代の民法・商法改正 ……281
(1)　民法改正 ……281
(2)　商法改正 ……282

第13章　司法権の独立
――大津事件と免許代言人

Ⅰ　ニコライ皇太子遭難 ……285
1　事件の概要 ……285
2　事件後の推移 ……288
(1)　大審院諸判事の刑法解釈 ……288
(2)　大津地方裁判所の予審開始 ……288
(3)　検事正の予審中止請求 ……288
(4)　三浦判事の管轄違いの決定 ……289
(5)　児島院長の予審判事任命 ……289
3　児島院長の対応 ……290
(1)　松方総理と児島院長の面談 ……290
(2)　３大臣による４判事の個別面談 ……291
(3)　土井判事の予審意見 ……291
(4)　担当判事の会議と決定 ……292

(5)　山田司法大臣の告示 ……292
(6)　穂積・添田の来訪 ……292
(7)　担当判事と院長の大津出張 ……293
4　児島院長の決断 ……293
(1)　諸判事への説得 ……293
(2)　内閣への通知 ……295
(3)　山田・西郷両大臣による最後の干渉 ……296
Ⅱ　法廷論争 ……299
1　公判の状況 ……299
2　検察官の論告求刑 ……301
(1)　三好検事総長の論告 ……301
(2)　川目検事の補充論告 ……301
(3)　検察官の求刑 ……302
3　弁護人の弁論 ……302
(1)　弁護人の経歴 ……302
(2)　谷沢弁護人の弁論 ……304
(3)　中山弁護人の弁論 ……305
(4)　弁護人の卓越した弁論 ……306
4　大審院の判決 ……307
5　判決後の動向 ……311
6　法的問題点 ……312
(1)　管轄権問題 ……312
(2)　裁判官の説得問題 ……313
7　児島惟謙の人間像 ……314
(1)　児島の生立ち ……314
(2)　裁判官になる ……315
8　大津事件はなぜ大事件となったのか ……316
9　その後のニコライ皇太子 ……316

10　司法権の独立が問題となったその後の事件……316
(1)　立法権との関係……317
(2)　司法権内部の関係……317
11　司法消極主義……318

第14章　免許代言人・弁護士の巨人

Ⅰ　山崎今朝彌の弁護士大安売……320
1　自由人山崎今朝彌……320
2　山崎の初仕事と渡米……321
〈コラム〉駆け出し弁護士の法廷実務……322
3　弁護士開業と面白広告……323
4　結婚通知書……324
5　新聞紙法違反弁護事件……324
6　上告趣意書――全国の司法官は皆偉大なる低能児の化石なり……325
7　山崎弁護士徴戒裁判……326
8　上告弁護士……328
9　法律事務所の旗印……329
Ⅱ　多くのエピソードを残した免許代言人・弁護士……330
1　免許代言人・弁護士の自由民権精神……330
(1)　青木徹二……331
(2)　足立進三郎……331
(3)　石黒涵一郎……331
(4)　菊池侃二……332
(5)　岸清一……332
(6)　澤田正泰……333

(7)　高木益太郎……333
(8)　鯰江貞継……334
(9)　野平穣……334
(10)　鳩山和夫……335
(11)　増島六一郎……335
(12)　森作太郎……336
(13)　山田喜之助……336
2　民事・刑事裁判の道を拓く……336

・【資料】　代言人・弁護士関連年表……339
・あとがき……345